

3次元眼底像撮影装置

DRI OCT Triton を導入しました！

この度、3次元眼底像撮影装置 DRI OCT Tritonを導入しました。

次世代のOCT（Optical Coherence Tomographyの略で、光の干渉現象を利用し、眼の立体構造を知ることができます。）であるSwept Source(波長掃引光源)テクノロジーを搭載しており、従来のOCTでは描写できなかった硝子体から脈絡膜まで観察が可能となりました。

この器械では網膜などの断層像の撮影ができ、緑内障や黄斑疾患などの様々な病気の早期発見や精密な検査が可能となります。

この器械でわかる病気

・緑内障

目から入ってきた情報を脳に伝達する視神経という器官に障害が起こり、視野（見える範囲）が狭くなる病気のことです。治療が遅れると失明に至ることもあります。

・糖尿病網膜症

糖尿病の合併症の1つです。糖尿病のコントロールが悪い状態が続くと網膜の血流が悪くなり、出血や黄斑部に浮腫（黄斑浮腫）をおこし、視力の低下をきたします。

また進行すると新生血管が出現し硝子体出血や牽引性網膜剥離を起こします。日本の中途失明原因の代表的な病気です。糖尿病の方は自覚症状がなくても定期的に検査を受けることをお勧めします。

・加齢黄斑変性

見る時に最も重要な組織である黄斑の機能が加齢などの原因によって障害される病気です。放置すると、視野の中心に視力障害を引き起こします。

